

# GLOBAL VOYAGE

[グローバル ヴォヤージュ]

PEACE BOAT

\*2019\*

Summer

お楽しみ満載

イタリアの旅

第二特集

美しい砂漠の国ナミビア

[ナミブ砂漠・ムーンランドスケープ・スワコプムンド]



## お楽しみ満載 イタリアを堪能する

ヨーロッパのなかでもイタリアの人気は格別で、乗船予定者の期待も高い寄港地だ。まず世界遺産の数が世界で最も多く、観光バリエーションが豊富で、芸術、文化にふれる機会にも恵まれている。そしてショッピングやグルメでも人々を惹きつける。主要な都市にはまたそれぞれ特徴があり、楽しみは尽きない。現在発表しているピースボートクルーズで訪れる、イタリアの寄港地を紹介する。

Republic of Italy

## CONTENTS

### 特集

お楽しみ満載

## イタリアを堪能する

- ローマで素敵なお日を ..... P4
- 世界最小国「ヴァチカン市国」を巡る ..... P6
- 美しきナポリを楽しみ、  
古代都市ポンペイ遺跡へ ..... P7
- サレルノから  
麗しきアマルフィへ向かう ..... P8
- 優雅なリゾート地ソレントへ ..... P8
- シチリア島カタニアを満喫する ..... P9
- イタリアングルメ ..... P10
- アンバサダーインタビュー ..... P12

### 第二特集

## 美しい砂漠の国 ナミビア

- 地球とは思えない、月面世界を体験する ..... P16
- ナミビア一番のリゾート地スワコプムンド ..... P17

### PEACE BOAT TOPICS

ハイティーを楽しむ

- PEACE BOAT TOPICS  
ハイティーを楽しむ ..... P18

表紙の写真

ローマの世界遺産「コロッセオ」。ローマ帝政期の繁栄を物語る象徴。





「永遠の都」として世界中の人々から愛される街

イタリアの首都ローマは「永遠の都」と呼ばれ、世界の観光地の中でも屈指の人気を誇る。古代からローマ帝国が築かれ、ヨーロッパの中心として栄え、「ローマは一日にして為らず」「すべての道はローマに通ず」などの格言も生んでいる。2600年の歴史と文化が色濃く残っている街並みをはじめ、世界遺産の数々、雑誌やテレビで見たことのある観光スポット、そして美食の国イタリアのグルメなどが訪れるものを楽しませてくれる。



1: 映画「ローマの休日」でおなじみの「スペイン階段」。2: ポーリ宮殿と一緒にとなった美しい「トレヴィの泉」。3: 偽りのある人間が手を入れると噛み切られてしまう伝説がある「真実の口」。

チューイン、海馬やトリ Triton の彫刻も見事な美しさだ。「ローマに戻りたいと思うなら、後ろ向きにコインを投げよ」という言い伝えがあり、2 枚投げると想いの人との結婚がかなうともいわれている。トレヴィの泉が現在のような姿になったのは 1762 年のことだが、そのルーツは古代ローマにある。初代皇帝アウグストゥスの時代、すでに「水道」が整備され、その水道を通った水が現在も噴水から吹き出している。

ローマ観光でまず外せないのは、古代ローマ帝国時代に建造された、世界遺産の「コロッセオ」。コロシアムの語源ともなっているように、この円形闘技場で剣闘士や猛獸が闘いを繰り広げた。長径 188 メートル、短径 156 メートルの橢円形をしていて高さは 48 メートルもあり、収容人数は 5 万人という規模だつた。入場し 4 階層の観客席を回りながら往時に心をタイムスリップさせてみよう。その昔、猛獸などを収容していた地下施設、演出用のセツトなどを目の当たりにすると、歴史の重さをずしりと感じられる。ローマの象徴としてあまりに有名な施設は現在、さまざまなイベントにも使用されているそうだ。

常に多くの人で賑わっているのは「スペイン広場」。スペイン大使館が

あることからそう呼ばれているが、映画好きの人にとって名画「ローマの休日」でおなじみだ。オードリー・ヘプバーン演じたアン王女が「スペイン階段」でジエラートを食べ、シーヌが思い起こされるだろう。広場には 1629 年に制作された「舟の噴水」があり、記念撮影のスポットになっている。また階段途中にはイギリスの詩人の邸宅を改築した「キーツ・シェリー記念館」など見どころも多く、階段を上れば「トリニタデイ・モンティ教会」があり、ローマを一望できる見晴らしの良さも魅力だ。

ローマといえばこの泉を思い浮かべる人も多い「トレヴィの泉」。ローマ観光の定番だ。ポーリ宮殿と一緒にとなったバロック様式の豪華な造りで、威厳を感じさせる海神ネプ



Augustus

ヴァチカン美術館に所蔵されている古代ローマ帝国初代皇帝アウグストゥスの大理石像。



サレルノから麗しきアマルフィへ向かう

第104回ピースボートクルーズで初寄港となる「サレルノ」は、ナポリから約50キロ南東のティレニア湾に面した港湾都市。国際映画祭の開催地としても知られている。ここからバスで1時間ほどで行けるスポットが「アマルフィ」だ。崖に囲まれながら

海に面した地理を活かして古くから諸国との貿易で栄え、海洋国家として発展した歴史がある。その名残りを石造りの大きな階段、9世紀に建立された壮麗な大聖堂などから感じることができる。もちろん、イタリア随一の美しさといわれる、30キロに渡つてのびる世界遺産、マルフィ海岸も見逃せない。真っ青な海に思わず感嘆の声が上がるだろう。ここはギリシア神話の英雄ヘラクレスが最も愛した恋人を葬ったという伝説もある。現在は世界中から観光客を集めりゾート地として知られ、初夏以降は海水浴場も華やかに賑わう。

アマルフィ海岸の起点となつているのが風光明媚なりゾート地として人気の「ソレント」。有名なナポリ民謡の「帰れソレントへ」で歌われている街だ。港からは「青の洞窟」で有名なカプリ島行きのフェリーが発着している。街は高台に位置しており、ティレニア湾の美しい海を望むことができる。街の中心ともいえるタツソ広場は、詩人トルクアート・タツソにちなんでつけられた名で、中心には街の守護神聖アントニーノの像が立つていて。落ち着きのあるお洒落な雰囲気の通りが続き、お土産屋やブティックなどが並び、名物の寄

木細工などのショッピングにも最適だ。お洒落なカフェでひと休みすればリゾート気分を満喫できるだらう。レストランの激戦地でもあり、フィ地方特有の極太ピasta「シャラティエッリ」を味わいたい。

ノチリア島カニニアモニ満契する

ブーツの形をしたイタリア半島は古く、紀元前10世紀頃から氣味、進化した自然、グランジビ

カタニアは、シチリア島でパレルモに次いで2番目に大きな街で、その街並みは古い歴史をもち世界遺産に登録されている。観光スポットも多く、映画「グラン・ブルー」の舞台になつたことで知られるタオルミーナは標高200メートルに位置する高級

リゾート地として世界中から人気を集めている。

でゆつくりくつろぐのもお勧めだ。  
近くに市場があるので、のぞいてみる

でゆつくりくつろぐのもお勧めだ。近くに市場があるので、のぞいてみると食の豊かさがわかる。レストランで新鮮な魚介類をはじめとするシチリア料理をオーダーすれば地元ならではの美味しさを味わえる。

「ネアポリ考古学公園」へ向かうと、イタリアで最も大きな、岩盤をくりぬいて建設された「ギリシア劇場」、古代ローマの円形闘技場、帝王の名を冠している「ディオニソスの耳」などの遺跡が保存されている。

る。このほかオデオン小劇場、ローマ浴場などを観光することができる。

シチリア島の南東部の小さな港町シラクーサも人気の高い街だ。エメラルドブルーの海が広がり、穏やかな時間が流れている。街の中心である海に突き出たオルテジア島には紀元前5世紀に建つた神殿が改装され教会になつた「シラクーサ大聖堂」がある。バロック様式の建物は美しく、その前は広場になつてるのでカフェ



教会や時計台などがあり街の人々の集いの場である「4月9日広場」



*Amalfi* [アマルフィ] 切り立つ山に建つ可愛らしい街の前に世界一美しいと  
称される「アマルフィ海岸」が広がる。



アマルフィ海岸の海水場は大勢の観光客である。2:イタリアで誕したレモンリキュール「モンチャッロ」。



3:車が入れない路地裏には小さなお店が賑やかに並ぶ。4:タツソ広場の近くにある美しい「カルミネ教会」。5:レキンを干チーフにした陶器の絵図。



# Sorrento [ソレント]

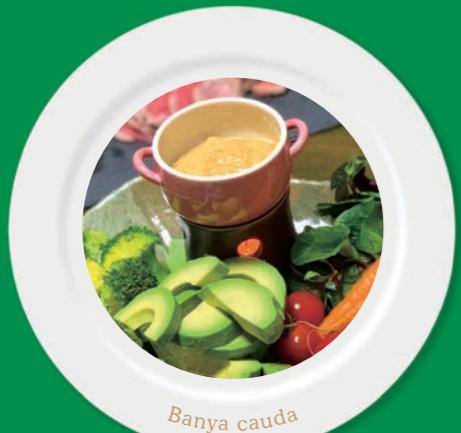
お洒落なリゾート地の景観が南イタリアらしいバカンス気分を盛り上げてくれる。



タオルミーナから望む「エトナ山」 50万年前から噴火。今も煙を

タオルミーナから望む「エトナ山」。50万年前から噴火し、今も煙を上げながらカタニノの街をぐるりと見下ろしている。

## Northern Italy [イタリア北部]



バニヤカウダ

ピエモンテ州の郷土料理。バニヤ=ソース、カウダ=煮いを意味する。元は、農民が生み出した料理。



Carpaccio

起源は諸説あるが、薄切りの生牛肉にチーズ、ソースなどをかけた料理のこと。魚のカルパッチョは日本が発祥。



Bolognese

「ボローニャ地方」のパスタ。フランス料理を参考に肉をトマトで「ラグー(煮込み)」したのが始まり。



Prosciutto

イタリア産「コッパ」は、古代ローマの保存食で豚肉を熟成させ、かむほどに旨味が広がる逸品。



Risotto

米料理の文化があるイタリア北部で生まれ、現在はイタリアンレストランの定番メニュー。



## イタリアングルメ

Italian Gourmet

イタリアはグルメの宝庫である。日頃から、日本でも食卓に並んだり、身近なイタリアンのお店でその美味しさに舌つづみをうっているわけだが、本場で食べる料理となるとまた格別だ。イタリアへ旅立つ前に、ちょっとした豆知識を紹介する。



マルゲリータ

イタリアといえばピザ。トマト、モッツァレラチーズ、バジルをのせたマルゲリータはナポリピザの代表。



ジェラード

イタリア名物のイタリアンジェラート。派手な色はフルーツの自然の色を生かしているから。



カンノーロ

シチリアの伝統菓子。サクサクの生地でさっぱり甘いクリームを包み込んだ絶妙のハーモニー。



パンナコッタ

パンナ(生クリーム)をコッタ(煮た)という意味のピエモンテ州を発祥とするイタリアを代表する菓子。



ティラミス

北イタリア生まれの日本でも最も有名なドルチ。現在はイタリア各地に名店がある。

## [イタリア南部] Southern Italy



アランチーニ

シチリアの郷土料理。ライスコッケで、現在では具材はさまざまにアレンジされて食されている。



ポンゴレビアンコ

ポンゴレはあさり、ビアンコは白(ワイン)の意味。南イタリアの海岸沿いで最もポピュラーなパスタ。



アクアパッツア

魚介類が豊富な南イタリアの郷土料理。漁師料理が起源という説もあり、新鮮食材の旬を楽しむ料理。



クスクス

北アフリカからシチリアに伝わったとされる料理。家庭料理としても定着し味のバリエーションも豊富。



カポナータ

シチリアとナポリの伝統料理。ナスをはじめ夏野菜の炒め煮で魚介類などに入る場合もある。



アンバサダーが語る

## ピースボート クルーズ体験



地球一周の船旅親善大使(アンバサダー)を務めている平井葉子さんは、10回のクルーズ体験をもとに、乗船希望者の質問や問い合わせに応対している。南半球を巡る第100回クルーズにも乗船した平井さんの寄港地での思い出、船上生活などについて話を聞いた。

第100回クルーズ乗船  
平井葉子さん

ピースボートクルーズを通して知り合った友人たちとは、年に数回集まって食事をしたりする仲で、海外の友人とも定期的に連絡を取り合っているという。

### 初めての乗船は1997年

「ピースボートクルーズに初めて乗船したのは1997年でした」という平井さん。もともとピースボートの活動に 관심はあったが、30代40代と仕事と家庭の両立で忙しい身に時間的な余裕はなかった。乗船が実現したのは子育てが一段落したタイミングだった。

「家族も喜んで送り出してくれまして、3週間という短いクルーズでしたが、ベトナム、台湾、シンガポールなどを久しぶりに24時間すべてが自分の時間になる日々を送り、「食事もお掃除もすべてお任せで、船内では多くの友人がでて、こんな楽しいことはないと思いました」と笑う。

### 第24回 ピースボートクルーズに乗船

「乗船したのは第24回ピースボートクルーズ。乗船場所は日本ではなくイギリスのリバプールで、世界一周分の荷物を持って集合するなど大変でしたがそれもまた楽しかったです。キューバ、スペイン、カンボジアをはじめ印象に残る国や

場所は多くあります。キューバのハバナはとても気に入りましたし、バルセロナで食べたシーフード料理の味は忘れられません。アンコールワットには長期滞在し、毎日ジャングルの中へ出かけて遺跡を巡り、大自然も満喫しました」。

### ひと昔前の 船上生活を振り返って

「当時たとえば食材は寄港地で調達していたので、東南アジアに行けば船内の食事も東南アジアテイスチックでした。また売店でも寄港地でお菓子を調達し、時期によって品揃えが変わっていた記憶があります。そのこともあり、今回のクルーズで私はお菓子をたくさん買って乗組んだのですが、売店には日本のお菓子の種類や品揃えも多く、あれ? 以前とは違うなと思いました(笑)」。



平井さんが「今回のクルーズ」というのは、昨年12月に出航した第100回ピースボートクルーズのこと。家庭の事情もあり、しばらくピースボートとは離れていたが、「プライベートも落ち着きを取り戻し、また記念クルーズなのでリピーターが多いと聞き、旧知の友人も大勢乗船すると思い申し込みました」。そんな15年ぶりのピースボートクルーズは平井さんの目にどう映ったのだろうか。

「もちろんすべての寄港地が素晴らしいのですが、最も印象に残ったのは南アフリカのポートエリザベスです。サファリの保護区において野生動物を目の前で見られたからです。とてもワクワクする貴重な体験でした」。

また、オプショナルツアーにはどのようないい處で参加しているのだろうか。光地をまわれるようオプショナルツアーを取っています。今クルーズで寄港したケープタウンは過去に訪れたことなかったので、友人たちと一緒に自由行動で街まで行き満喫しました。また、ピースボートならではの交流ツアーも数回であります。一般的な観光では見たり感じたり

### 第100回 懐かしの街を訪ねる

できない、印象に残る貴重な体験をすることができると思います。

### イベントの多さや グローバル化も近年の傾向

ピースボートクルーズでは船内のさまざまなイベントやプログラムが人気だが、平井さんのお勧めを聞いてみると「昔から続いている夏祭りと運動会は、今回も最高に楽しかった」と語る。また「乗船者の方のさまざまなお話しを聞く機会は以前からありましたが、語学教室、ダンス、ウクレレ、和太鼓、卓球などはじめ講座やイベントがたくさんあって、楽しみが増えるし新しい友だちと出会う機会も多くなります」と船上生活の魅力を紹介してくれた。もうひとつ今回のクルーズで気づいたことがあったという。「アジア諸国から乗船される方や語学教室(GET)スタッフなども含めると船内はとてもグローバル。英語を話す機会も増え、自分次第で外国人のお友だちもどんどんつくれます」。

### さまざまな きつかけが詰まつた「玉手箱」

現在平井さんは、ジャパングレイスにおいて週二回、アンバサダーとして活躍している。乗船希望者などの訪問を受けて、ご自身の体験をもとに、ツアーや



### ★船上生活に便利だったもの(平井さん談)



#### 小型の ショルダーバッグ

寄港地で外出する際などに、貴重品や上着などの身の回りのものを入れて持ち歩けるバッグが活躍。

#### 上着や トレーナー

寒暖差がある場所が多いので、すぐに着脱できる上着などをもつていくと便利。

#### カルピス

自分の嗜好に合った飲み物、あるいはスティックコーヒーも船内で人気だったという。



世代を超えた友人たちと「波へい」で集う。

# 美しい砂漠の国ナミビア

ナミビアはアフリカ大陸の南西部に位置し、西側は大西洋に面している共和制国家だ。寄港地のウォルビスベイは首都ワイン・トフックから西にあり、大西洋沿いには約1300キロにわたって、世界一美しいといわれる「ナミブ砂漠」が広がっている。



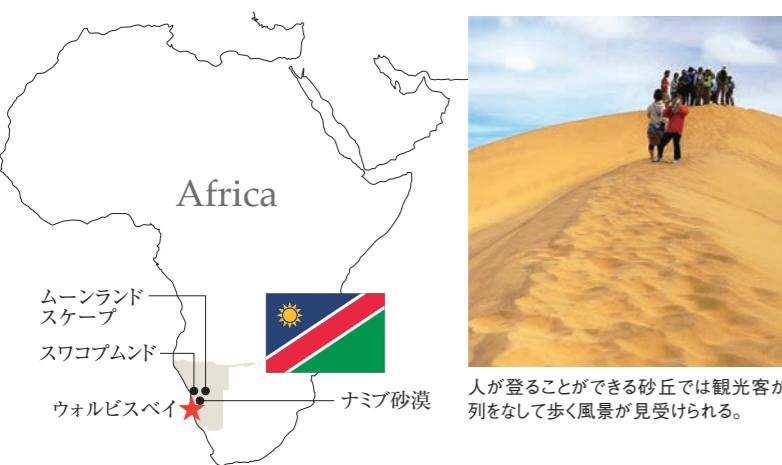
Namibia

ナミビアの国名の由来は「何もない土地」という意味からきているが、実は多様な魅力をもつている国である。世界遺産に登録されているナミブ砂漠をはじめ、野生動物との出会い、豊かな海や渓谷など多くの見どころがある。

ナミブ砂漠は世界最古の砂漠ともいわれ、8000万年前に生まれたという説もある。現在のような姿になったのが200万年前という、途方もない時空を経てきた自然の産物だ。ナミブ砂漠は大部分が国立公園で、幹線道路沿いには象牙色の砂丘群が延々と広がっている。ウォルビスベイの東側郊外にあるのが「デューン7」と呼ばれる砂丘。高さ100メートルにも及ぶ

砂丘が連なりながら続く砂漠は、砂丘に番号が付けられていて、「デューン7」は人が登ることができ数少ない砂丘の一つ。丘とはいっても、かなりの距離を砂に足を取られながら歩くので、体力も使う。頂上に到着したら、見渡すかぎり砂丘が広がる壮大な景色を堪能できる。刻々と変わる砂肌の風紋の美しさも必見。運が良ければ、砂漠に生息するオリックスやインパラなどの野生動物の姿を見ることができるかも知れない。

またインターネットなどでナミブ砂漠を象徴する風景として登場する、赤い砂漠「ソッサスフレイ」は、オーバーランドツアード行くことができる。



ナミブ砂漠の中部に位置するソッサスフレイ砂丘は、赤い砂漠として世界的に知られている。

砂丘が連なりながら南北に1288キロ、幅120キロの広大な砂漠が延々と続く。





1:ハイグレードなコーヒー豆をその都度挽いて、ドリップにより丁寧に仕上げる。  
2:酸味や苦味、豊かな香り、それぞれ個性あるコーヒー豆を厳選。3:飲み物を通して作法やマナーなども取り入れると、なお楽しいティータイムに。4:大海原を前に贅沢なひとときが楽しめる。



「よい船旅を！よい人生を！」

船上では多くの方にご利用いただけた、「新たに、贅沢なくつろぎの空間ができる」「ハイティーを楽しみながら友人との会話もいつそうはずむ」「目の前で丁寧に仕上げられるコーヒーが素晴らしい美味しい」「生演奏のBGMでいつそう優雅な雰囲気になる」など好評いただいている。

店名の「BON VOYAGE」は「よい船旅を！よい人生を！」という意味で、今後乗船される方も、まさにこの店名に合った時間を、船上で楽しんでいただきたい。



5:什器も含めてこだわりのある商品づくり、空間づくりを通してくつろぎのひとときを演出。6:ご夫婦や友人同士でゆったりとした時間を満喫する方も。

## 船上で優雅に ハイティーを楽しむ 午後のひとときを

英国発祥の「ハイティー」をベースにした店がオープン。第101回のピースボートクルーズから船上に新しい店「BON VOYAGE（ボン・ヴォヤージュ）」がオープンした。アフタヌーンティーと並んで英国で楽しむ「ハイティー」をベースにした店として登場した。ハイティーとは、あまり聞き慣れない言葉だ

「BON VOYAGE」がオープンしたのは7階船首の図書コーナー前で、船内でも特に眺望の素晴らしい場所。ここで前方に広がる大海原を眺めながら、午後のひとときを優雅に過ごしていただくことがコンセプトだ。こちらでのハイティーメニューは、3段トレーによるサービスで、すべて自家製のクッキーが3種、フルーツ2～3種、サンドウイッチ、ワッフルが基本で、3種類のジャムからお好きなものを選んでいただけるようになっている。

### 紅茶、コーヒーとともに こだわりの逸品をご用意

が、辞書によると、英國発祥で夕方に出される軽食付きのお茶“とある。アフタヌーンティーと違うのは、お菓子やクッキー or サラダ、サンドウイッチ、ケーキのほか肉料理や魚料理も出されるようだ。

### 素晴らしい眺望とともに 優雅に過ごしていただけ

世界を巡りながら世界各国の紅茶、コーヒーを味わう

# 船上百景

## [洋上夏祭り]



浴衣や法被に身を包み、みんなで一つになっての盆踊り。



ヨーヨーすくいなどのゲームも大盛況。



和太鼓の響きが祭りと盆踊りを盛り上げる。

用意され、衣裳や仕掛けに趣向をりふして準備した「お化け屋敷」にはコワいもの見たさに長い列ができた。また最高潮は、参加者全員が特設やぐらの周りにいくつもの輪をつくつて踊る、盆踊り。音頭に合わせて和太鼓が鳴り響き、初めて踊る参加者も大きな笑顔で、みんなで一つになることができる。大海原の開放感が夏祭りを格別なひとときとして演出してくれるのだ。

「一番楽しかったイベントは夏祭り」という声を毎回聞くほど、「洋上夏祭り」は高い人気を誇る。当日は、浴衣や法被を着て参加する人も多くお祭り気分が盛り上がる。夏祭りのプログラムは盛りだくさん。ヨーヨーすくいや輪投げなどの出店は年代問わずに楽しめる」とができる、かき氷や綿菓子といった祭り定番の屋台も大盛況。手作りの神輿が登場すれば会場から大きな歓声がわき、霧岡気がいつそう高まっていく。ゲームもさまでま

### 多彩なプロクラムで盛り上がり 最後は盆踊りで最高潮

既日食のときの様子です。僅か3分50秒という短い時間でしたが、気温が下がることで涼しくなり、いつも当たり前のように存在している太陽のありがたみを実感できたようです。いつもそこにあるもの——太陽や空気はもちろん、家族や友だちや何気ない日常。船のデッキから大海原を眺めていると、そんな当たり前の存在に想いを馳せるときがあります。失つてはじめて気付くと言われる「あたりまえ」。でも、失わざともその大きさを感じられるのが旅の良さではないでしょうか。非日常な世界のなかで、「あたりまえなんて存在しない」を感じることができれば、旅から戻ったときのいつも景色がまた違つて見えるかもしれませんね。(N.I)

7月下旬だというのに、今日も東京の空は曇っています。日照不足で農作物への影響も出でていますし、数十年後には地球温暖化の影響で関東周辺の梅雨明けは8月に入るという予想もあります。所変わつて7月上旬の南太平洋、午前10時34分——日中だというのに夜のような暗闇が広がり、空にはシリウス(おおいぬ座)が輝きを放つ。これは、オーシャンドリーム号にて7月2日に観測した皆

編後  
集記